

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101927		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協グループホームそまじ		
所在地	山口県下関市豊北町大字田耕2790番地		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町受理日	平成24年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは民家改造型の単独施設ですが、地域の住民の方に支えられ安心して生活することが出来ています。緑の中の自然に囲まれた家は地域の中にとけ込み、施設としての違和感はありません。入所されている方もご自分の家のように感じておられ、外出先から帰って来ても「ああ、やっぱりここがええね。」と心底から口にされます。一日の時間の過ごし方もそれぞれで、自由に生活を楽しんでおられます。毎日入浴をして清潔な服を着て、美味しい物を食べて、天日干しにしたふかふかの布団で休む。家庭的な雰囲気の中で過ごされています。女性の職員は全員料理が得意で、食事には特に気を遣い地域で採れた新鮮な食材を使って調理をしています。温かい物は温かいうちに、冷たい物は冷たいうちに、献立に合わせた食事を提供しています。調理や洗濯、掃除と日常生活に必要なことは利用者の方と一緒にいき、中には刺身を造ってくださる方もおられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三食とも事業所で調理をされ、旬の野菜や新鮮な魚などの食材をふんだんに使った利用者の好みに応じた献立で、時には利用者と一緒にホットプレートを使ってお好み焼きや焼きそばを作ったり、温かい鍋をみんなで囲むなど、食事が楽しみなものになるように支援されています。運営推進会議では事業所の課題等について活発に意見交換され、事業所前にガードレールが設置されるなど、サービスの向上に活かされています。事業所主催の夏祭りは、運営推進会議の委員や地域の住民、小学生から高校生まで幅広い人たちの参加や協力を得たり、季節行事(ひな祭り、柏餅作り等)や畑作りなどで地域の人たちの協力があるなど、日常的に地域との交流をしておられます。「住み慣れた地域で、なじみのある言葉に囲まれてゆっくりすごします」の理念に基づいて利用者を尊重され、馴染みのある優しい言葉かけで利用者のその人らしい暮らしが続けられるよう心がけておられ、利用者は穏やかで明るい表情で過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、馴染みのある言葉に囲まれてゆっくりと過ごします」の理念の下、家庭同様に穏やかに生活が出来るように支援している。	理念を全職員で検討し、地域向けの事業所だよりも掲載して周知を図っている。管理者、職員は住みなれた地域での馴染みのある言葉かけに心がけ、利用者が馴染みのある環境の中でゆっくりと過ごせるよう理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームに直接案内があり、地域の祭りや行事には積極的に参加している、施設の行事には地域の方にご案内をして来て頂いている。	利用者は、地域の祭りや敬老会等の行事に参加し、地域のふれあいサロンの人達との交流もある。事業所主催の夏祭りでは、運営推進会議の委員やそまじ地区の人、小学生から高校生まで幅広い人たちの参加や協力を得たり、季節行事(ひな祭り、柏もち作り等)や草刈り、畑作り(きゅうり、なす、かぼちゃ等)などで地域住民の協力があるなど日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招き認知症についての説明会を開いた事がある。当初理解を示さなかった人も、次第に納得し、柔軟な考えに変化した経緯がある。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価で指摘されたことは、ケア会議等で職員と共有し、目標達成計画を作成し、具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は評価の意義を十分理解しており、自己評価は、評価票を職員全員に配布し記入して、管理者がまとめている。外部評価結果について、ケア会議で話し合い、初期対応や応急手当の定期的な訓練や勉強会を実施するなど具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回施設の現況報告の詳細を配布して説明している。そこでの意見は謙虚に受け止め、ケア会議等で職員と共有しサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、地域の関係機関や団体、地域住民など数多くの参加者を得て、事業所の現状、外部評価への取組等について話し合っている。夏祭りの計画や反省、緊急連絡網による協力体制、視察研修などについて意見交換し、会議での意見で事業所前にガードレールが設置されるなどサービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームで起きる様々な事象に対して、専門的 な知識が必要な時には、相談し協力を得て いる。御家族の中には直接市町の窓口に行 き相談される場合がある。その時には管理者 に連絡があり、協働して問題の解決に当たる ようにしている。	市担当課には、運営推進会議の議事録や事 故報告書の提出時に事業所の現状を伝える ほか相談や助言を得たり、事業所の視察研修 への同行や市の保健師に講話を依頼するな ど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に対する声掛け、対応等すべてに対 して相手を尊重している。日中、ホームの中 は何処にも鍵は掛けていない。どこからでも 自由に出る事が出来るようにしてある。職員 全員が鍵をかけないことの意義を理解してい る。	身体拘束だけでなく、権利擁護、虐待防止に 関する勉強会を定期的実施し、職員全員 で理解を深めている。月1回のケア会議やミー ティング等でも繰り返し話し合い、玄関の施錠 を含めて身体拘束をしないケアに取り組んで いる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意 を払い、防止に努めている	内部研修計画の中に高齢者虐待防止法につ いて入れている。何回にも分けて勉強会を 行なった。すべての職員が、虐待の内容を理 解している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の 必要性を関係者と話し合い、それらを活用 できるよう支援している	内部研修の中で繰り返し勉強会を行なった。 現在この制度を利用している人はいないが、 これから必要になれば利用しようと思う。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	入所の際十分時間をとり説明を行っている。 定期的開催する家族会においてもホーム に対する要望や意見をいただくようにして いる。重要事項に変更があった場合には、 事前に案内をして家族会を開き、理解・納 得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制 や処理手続きを定め周知するとともに、意見 や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させて いる	入所の際十分に時間をとり説明を行ってい る。面会時にも意見や要望が出しやすい雰 囲気作りに努めている。ホームで対応でき る場合にはすぐにサービスに生かすように している。管理者で解決できない場合には 運営側に相談するようにしている。	家族の訪問時や電話、年4回の家族会、施設 主催の行事、食事会への参加の際に、意見 や要望などを聞いており、その内容を運営 に反映させている。苦情相談窓口及び担当 者、苦情解決責任者、第三者委員、外部機 関を明示し、苦情処理手続きを明確に定め ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で、細かい意見や要望は管理者が直接聞き運営側に伝えている。他に年に一度意見や要望を聞くアンケートが配布され職員は自由に記入し、運営側が対応するようにしている。	年に1回の職員アンケート、月1回のケア会議やミーティング等で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、日常業務の中で職員からの意見が気軽に出来るような雰囲気をつくり、職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当初からの職員が多数勤務している。労働条件に対する要望は月に一度開かれる法人の会議で管理者が運営側に伝えるようにしている。年度末には異動の希望調査も行われている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は内容に応じ順次受けるようにしている。内部研修も、月に一度内容と担当を決め全員で勉強会を開いている。そこで外部研修の復命も同時に行っている。	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受講の機会を提供し、月2回の法人研修と併せて復命、伝達を行っている。内部研修は年間計画を作成し、担当者を決めて毎月1回実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の中に、様々な事業があり、月に一度各事業の管理者会議が行われる。会議の中で、入所に繋がる情報を得たり、入所後の利用者の様子を伝え、苦情や要望を聞く事がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決定した段階で、御家族やケアマネージャーに本人の生活歴や趣味、生活のリズム等を詳細に聞くようにしている。その情報をもとにケア会議を開き、入所後のより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決定した段階で、御家族からの要望や意見を聞くようにしている。ケアマネージャーからも細かく情報をもらい良好な関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員で情報を共有した上で、ホームが本人にとって自宅同様の場所になるように努力をしている。デイサービスの利用等も考慮に入れ、より幅の広いサービスに努めるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	起床後から就寝まで一日を通し、生活リハビリに努めている。できること、出来ないことを見極め、生活全般にわたり、一緒に行い時間を共有している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊等は自由にして頂いている。施設の行事にもできるだけ参加してもらい、家族の信頼関係を高める工夫をしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に受けていたデイサービスセンターへの訪問や地域の寺詣り、行きつけの食堂での会食、行きつけの美容院での散髪等、できるだけ行き支援に努めている。	知人や親戚の訪問、家族と一緒に地元の敬老会に参加したり、以前利用していたデイサービスでの交流や、行きつけの食堂や理美容院に行ったり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の中から、利用者間の親密度を把握し、お互いに支えあう事ができる場面づくりを心がけている。時にトラブルになりそうな場合には、さりげなく職員が間に入り仲を取り持つようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院や入所をされている方の面会をしている。家族からの相談や要望等も聞き入れ、できるだけ家族に寄り添うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中や、様子から本人の要望・意向の把握をしている。希望の飲み物、食べ物、入浴の意向、散歩の意向、すべて本人本位に決定している。	利用開始時に利用者や家族の希望・意向を聞き、本人が安心して生活できることや職員とより良い関係を築くための情報を得るよう努めている。日々の関わりの中で把握した思いや気付きは、申し送り帳や個別記録に記入している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所が決定後、御家族に話を聞いたり、担当のケアマネージャーから基本情報をいただいている。認知症の介護には生活歴の把握はとても重要で絶対に外すことのできない項目である。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有意義な日常生活を送っていただくためにも、できること、できないことの把握に努め、可能な限りの生活リハビリに重点を置いている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に関わりのあるすべての人と話し合い、日々変化する本人の身体状況に合わせた介護計画を作成している。	申し送り帳や個別記録からの利用者の要望や状態、主治医からの意見、面会時や電話連絡時の家族からの意見を参考にしながらケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。職員全員で毎月1回ケア会議を開催し、利用者一人ひとりのモニタリングを行い、3ヶ月に1度の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務を引き継ぐ際に行う口頭での申し送りや、書面の申し送り帳、個別のケース記録を確認する事で、少しの変化も見逃さないようにしている。変化がある場合には、計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が面会に来られた際、食事が必要な時には柔軟に対応し、宿泊にも対応している。相談があれば、内容によっては、行政や他のサービス事業者に繋ぎ要望に応えるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の案内があれば出席して、地域の方の中で会食するようにしている。寺詣り等も行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設医は決まっているが、病状によっては他の医療機関を受診する事がある。その時には、施設医からの紹介状を持参して、家族が対応できない場合には職員が付き添うようにしている。	利用者、家族の同意を得た上で、事業所の協力医を主治医としている。2週間に1度の往診のほか、緊急時等の受診をしている。他医療機関や他科受診は主治医の紹介状を持参して、家族または職員が受診に同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設医の判断により、継続した治療が必要な場合には、訪問看護師に繋げている。医師、訪問看護師への適切な情報提供により、安全で安心できる生活を送る事ができている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通常の入院、緊急時の入院にかかわらず必ず職員が同行し、医師や看護師に情報提供している。退院の際には、家族、MSWとの連携を密にし、スムーズに退院できるように支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは、職員配置に問題がある為にターミナルケアまでは行っていない。その事は家族会でも説明をして、理解を得ている。しかし、入院中に介護度が上がり退院するケースが相次いでいるため、重度化した場合でも次の受け入れ先が決まるまではホームで生活していただいている。	利用開始時に事業所の方針を家族に説明している。実際に重度化した場合はその都度、主治医、看護師、家族、関係者と話し合いをして、病院や介護施設等への移設を支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	前回指摘を受けた後、ケア会議で重点的に、応急手当と初期対応の訓練を行った。現在はすべての職員が応急手当の方法を身に付けている。避難訓練時に消防職員からも指導を受けている。	月1回のケア会議において、事故報告書、ヒヤリハット報告書に基づく利用者一人ひとりに応じた事故防止対策を話し合っている。緊急時や初期対応の訓練は、職員全員で繰り返し行っている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員さんの協力も得て、夜間想定での避難訓練や災害想定避難訓練を行った。スプリンクラーや自動火災通報システムも完備し、設備が充実してきた。緊急連絡網も、地域版と職員版二通り用意し分かりやすい所に掲示している。	年に2回、消防署の協力で夜間想定や土砂崩れを含めた避難訓練や避難経路、緊急通報装置の確認などの研修を実施している。運営推進会議でも議題として取り上げ、避難訓練への参加や緊急連絡網の作成など協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない声掛け、対応に留意している。職員間で気づいた事はお互いに注意し合いよりよいケアに繋げている。	マニュアルを基にした自己研修や「自尊心について」の勉強会を行い、日々の関わりの中で、利用者の自尊心を傷つけない、プライバシーを損ねない言葉遣いや対応に気を付けている。日常的にも管理者が常に点検を行い、職員のプライバシーに関する意識の向上に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆さん自由に自分のペースで生活をされています。好みの飲み物、好みの献立の工夫もしています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間すべて自由に生活をして頂いている。入浴、散歩と必ず意向の確認をしながら行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた清潔な衣服を着て頂くように気を配っている。組み合わせがおかしな時には、自尊心を傷つけないようにさりげなく支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、皆さんの意見を聞いている。季節の食材を工夫して調理し、新鮮な魚を刺身にする時には得意な方をお願いしている。野菜の皮むき、和え衣づくりと、一緒に行っている。	三食とも事業所で調理し、旬の野菜や新鮮な魚などの食材を使い利用者の好みに応じた献立を立てている。食事の準備や配膳、片付けなど利用者のできることを職員と一緒にしている。利用者と一緒にホットプレートを使ってお好み焼きや焼きそばを作ったり、温かい鍋を囲んだり、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後必ず確認している。水分量についても、一日を通し確認し、飲水が苦手な方については、さりげなく声掛けし介助をするようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立していない人については、誘導をして介助をしている。義歯の方は、就寝前にポリデントを使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別にアセスメントをして、排泄チェック表を確認しながら声掛けトイレ誘導している。できるだけ普通の下着で過ごせるように支援している。	排泄チェック表でパターンを把握し、時間を見図りながら声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量の少ない方は、できるだけ散歩をして頂くようにしている。食事内容も野菜が沢山摂れる献立にし、デザートは食物繊維が摂れるように果物や寒天をメニューにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴中に何度か体調不良になられたことがあったので、緊急時の対応に不安がある為、入浴時間は日中に行っている。入浴の意向は必ず確認をして、安全で安心できる入浴を心がけている。	月曜日から金曜日の14時から16時までを入浴時間としている。利用者の状態や希望に応じてシャワー浴、清拭、手浴、足浴などを行い、ゆず湯や入浴剤を入れるなど利用者が気持ちよく入浴できるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を申し送りにより確認し、やや不眠の方については日中午睡を勧めている。空調の管理、空気の入替え等安眠できるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方された薬剤については、詳細な説明書が添付されている。毎回、個別の記録ファイルに綴じ職員が目を通せるようにしている。服薬後の状況についても、変化があれば主治医に報告をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活全般にできる方には役割を持って頂いている。掃除、洗濯、食事づくりの手伝い等一緒に行っている。魚づくりの得意な方には刺身を作っていただいている。	生花や貼り絵、テレビ体操や口腔体操、庭の草取り、縫い物(雑巾・座布団づくり、繕い物、すそ上げ等)、歌などのほか、日常生活の中で掃除器を使ったり、モップがけをしたり、洗濯物を干したりたたんだり、食事の準備や後片付けをするなど、職員は利用者の張り合いになることや楽しみごと、活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの前に散歩コースがあり、天気の良い日には散歩や外気浴を楽しんでいる。買い物と一緒に出かけたり、季節の行事を計画して、外出支援を心がけている。	日常的には事業所から田畑を見渡せる散歩コースを歩いたり、外気浴などを行っている。3ヶ月に1度、馴染みのレストランで食事をしたり、季節毎の花見やイチゴ狩り(なし狩り、みかん狩り)、お寺参り、買物やドライブを楽しむなど、外出を楽しめるよう支援している。行事によっては家族にも声をかけ、気分転換を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの管理が出来る方については、本人が持っている。出来ない方は、ホームで管理して、祭りや、外出先で使ってもらようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話はいつでも使えるようになっていいる。毎日家族に電話をする人もいいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、ホームの中はいつも明るくしている。玄関には季節の花を活け、壁に掛けるものも季節感のあるものにしている。空調の管理も、季節に合わせて行っている。	四方を山に囲まれ、事業所から見える広い田園風景には季節の変化が感じられ、明るく清潔感のある共用空間には活け花や職員と利用者が一緒に作成した貼り絵が飾られ、居心地のよいスペースとなっている。居間兼食堂は、台所に立つ利用者や職員が笑顔で穏やかに寄り添いながら調理をしている姿が見られ、家庭的で生活感あふれる空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出身地がおなじ方や、話題が合う方については、隣同士で座っていただいたり、その場の雰囲気に合わせて工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、自宅で使用されていた、馴染みのある生活用品を持って来ていただき、自宅と同様の自然な生活が出来ている。	利用前に家族と良く話し合い、安心感を持ってすごせるよう利用者の使い慣れた物や本人の好みの物が持ち込まれている。自宅の家のように障子やふすまで仕切られ、家族の写真や本人の作品を飾るなどその人らしい部屋になるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方については、廊下やトイレ、浴室に手すりが取り付けられてあり、ゆっくりと安全に移動が出来るようにしてある。這って移動される方もいるが、特に大きな段差もなく、自由に安全に生活することができている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 下関市社協グループホームそまじ

作成日：平成 24年 2月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	27	介護計画書の中に、サービスを提供する上で行なわれるべきモニタリングの期間が明記されていない。もう少し細かい内容のモニタリング期間が必要と思われる。	介護計画書に基づいたサービスの提供が行なわれているかモニタリングの期間を分かりやすくする。	毎日記録する個別の記録簿に介護計画書のサービス内容を分かりやすく明記をして、モニタリングできるようにする。期間を週単位にしていきたい。次に月単位にしていきたい。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。